

## シルクロード・ネットワーク・横浜フォーラム2015 ~シルクロードでつなぐ街と人~



上条地区の突き上げ形養蚕民家集落(山梨県甲州市) 重要伝統的建造物群保存地区

写真:米山淳一

平成 27 年 3 月 14 日 (土) 見学会・交流会 平成 27 年 3 月 15 日 (日)

講演会、ピアノコンサート、全国からの事例報告、展示

会場:横浜市開港記念会館 講堂・1号館

主催:公益社団法人横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ)

共催:NPO法人 街・建築・文化再生集団 (RAC)

後援:横浜市中区、ヨコハマ経済新聞、ヨコハマ洋館探偵団

協賛:株式会社三陽物産、株式会社 t v k コミュニケーションズ、相鉄企業株式会社、

株式会社大川印刷、

## -横浜より-ごあいさつ

馬車道に。こんな顕彰案内が立った。

「中居屋重兵衛は横浜が開港した安政6年(1859年)、横浜に進出した生糸貿易をになった貿易商です。取引量は全輸出生糸の過半を超え、幕末の生糸貿易は中居屋によって支えられ、中居屋重兵衛は横浜の発展の礎を築き、その事業は多くの生糸貿易商に引き継がれました。そして横浜は日本最大の貿易都市に成長していきました。

現在中居屋の活躍は遠いものになってしまいましたが、この地が中居屋重兵衛の店があった場所として永く 後世につたえられることを願っています」。

中居屋重兵衛の波瀾万丈な生涯はあまり知られていないだろうが、それでも「富岡」が世界遺産になったことで、中居屋重兵衛の地も新たな佇まいの公園となり、様々な顕彰が行われている。

本日は、中居屋重兵衛の活躍の末、横浜の生糸貿易が展開した場と、そのネットワークを求める「シルクロード・ネットワークフォーラム」の第一歩です

公益社団法人横浜歴史資産調査会 (ヨコハマ ヘリテイジ) 会長 宮村 忠



横浜市開港記念会館(国指定重要文化財)

写真:米山 淳一

## 一群馬より一ごあいさつ

街・建築・文化再生集団 (RAC) の活動を始めた当初、とくに養蚕や絹産業に注目していたわけではありま せん。しかし、私たちにとって重要と思われる建物を群馬でみていくと、養蚕・製糸関係の建物に気づかざる をえませんでした。それも、重要文化財の民家や、旧富岡製糸場というより、前橋にも高崎にも重伝建地区の 六合村にも、いや、いたるところで眼にできる、総二階で櫓付の、いわゆる養蚕農家の建物です。建築に気づ くということは、養蚕・製糸が群馬でどのような意味をもっていたか考えることにつながります。RAC ができ る前、その種類の建物がどこにあるか、私も加わり群馬の一部を巡ってみました。また RAC でも、工学院大学 の後藤先生と中村副理事長が群馬中の養蚕集落の分布と実態を調査しました。このような過程から、私たちの 眼は、養蚕・製糸の原点に迫るという意味で上田や岡谷などの長野県あるいは上条集落の山梨県、そして繭や 糸が日本から世界へと運ばれた横浜へと、自然と向いていきました。

経済的な結びつきは文化的な関わりでもあり、地域間の交流をヴィヴィッドに捉えることにつながります。 養蚕・製糸など絹産業が日本の近代社会に果たした役割を再認識することは、日本の近代化とは何であったか を問い直すことです。シルクロード・ネットワークの設立は、日本の近代史を再考するという、いま、実に重 要な意味をもつと思われます。

> NPO 法人街・建築・文化再生集団理事長 理事長 星 和彦



昭和村の養蚕民家

写真:NPO法人街・建築・文化再生集団

## -シルクロード・ネットワーク設立にむけて-

横浜は絹貿易拠点として栄え、現在の発展は絹によって築かれたと言っても過言ではありません。とはいえ、現代の都市開発の中で、絹産業の記憶が、正当に評価されることなく忘れ去られようとしている事実もあります。横浜には、絹産業が築き上げた建造物等の遺産や膨大なシルク関連資料、そうした資料の中にしか見られない多くの先人達の物語等が残されており、私たちは、これらを明日の横浜に伝えていくべき地域資産として考えています。そして、これらは横浜単独で出来たものではなく、多くの地域と結びつき、先人達の着想と努力で築き上げられたものです。横浜から絹の道を辿ると全国に及び、各地に蚕種・養蚕・製糸・織物・流通等の絹遺産が今も息づいています。また、富岡製糸場の世界遺産登録をはじめ、近年、蚕種や養蚕で繁栄した町が重要伝統的建造物群保存地区に選定されたり、製糸工場や鉄道関連施設が重要文化財に指定されたりして、絹産業遺産が、重工業だけでなく日本の近代産業遺産として目を向けられつつあります。

こうした事実を踏まえ、絹文化の足跡を振り返り、文化遺産として将来に亘り継承していくことと、地域活性化の切り札として活かす手だてを多くの地域と連携して創り上げる為に、「シルクロード・ネットワーク・横浜フォーラム」を開催し、ご参加皆様のご協力の下、新たに地域づくり活動組織として「シルクロード・ネットワーク」を設立したいと思います。

シルクロード・ネットワーク発足にあたり、各地の「絹」文化の姿を再見と、絹文化・技術の連携による新たな地域・文化づくりを目指し、各地の絹遺産、文化、物語などを集約したいと考えています。参加予定者他、多くの方々に依頼し、身近な絹遺産の紹介、それぞれの絹遺産に対する思いをご報告下さい。今後資料としてまとめ、皆様にご提供していくつもりです。新たな地域資産の発見と活性化の資源につなげて行きたいと思います。

#### 【絹遺産のイメージ】

□蚕種・養蚕・製糸に直接関わる建造物:

蚕種・養蚕民家及びそれに付随する建物、繭蔵(土蔵・れんが蔵)、蚕種・製糸・撚糸工場及び関連施設(水車、貯水槽、煙突、 発電所等)、稚蚕飼育場、風穴(蚕種)、養蚕学校々舎・結社・各事業家の生家、居宅(岡谷の旧林家住宅)等

□繭・生糸の販売、流通に関わる建造物:

絹・生糸問屋の店・住宅、生糸・繭蔵、繭・生糸市場(買場)・取引所・検査所等

□器械・器具、三分野(蚕種・養蚕・製糸)の技術

□製品:絹織物(全国各地に伝わる絹織物)

□上記に関わる人物の物語、事跡、遺跡、遺物(渋沢栄一、尾高惇忠、田島弥平、片倉兼太郎等)

(例:星野長太郎、深澤雄象、湯浅治郎他-明治初め、群馬では、地域の資産家、豪農、指導者たちが、新しい日本を築くための思想(自由・平等・博愛の精神)としてキリスト教を受容し、その精神は、養蚕製糸業の経営を支える大きな力となった。)

□運送·交通:運送業、鉄道、駅舎

□集落:養蚕集落、絹産業で潤った町並

□信仰:神社等(蚕影神社、碑等)

□その他の建造物: 絹産業で潤った飲食街、料亭等、娯楽・厚生施設(片倉館、 岡谷病院)

□文物:養蚕指導書等、護符(新田義寄(温純)、徳純、道純、俊純の猫絵、 少林山の縁起達磨等)

□習俗:養蚕製糸に関わる習俗、お祭り、お祝いの絵札等

公益社団法人横浜歴史資産調査会 (ヨコハマ ヘリテイジ) 常務理事 米山淳一



碓氷峠第三橋梁(群馬県安中市)国指定重要文化財 写真:米山淳一

## ● 目次

・生糸産業とヨコハマ、そして原三溪:西 和夫(神奈川大学名誉教授)	05
・「絹の歴史・文化と原三渓」: 川幡留司(公益財団法人 三溪園保勝会)	06
・横浜の生糸に関わる建築遺産:吉田 鋼市 (横浜国立大学名誉教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会副会長)	07
・山形県新庄市:加藤 明(山形県新庄市商工観光課クールジャパン新庄推進室)	09
・日本最初の民間器械製糸所「二本松製糸会社」: 中村 武(NPO 法人 街・建築・文化再生集団)	13
<ul><li>・岡谷近代化産業遺産群 長野県岡谷市:高林 千幸(岡谷蚕糸博物館)</li></ul>	14
・現代に活きる・伝えたい - 片倉館の地域への想い:長野県諏訪市山崎茂(片倉館 館長)	15
・蚕都上田の絹遺産~蚕種から製糸まで ソフトとハードの高融合~長野県上田市:中沢徳士(上田市教育委員会)	16
・信州小諸「糸都」( しと ) として栄えた城下町: 荻原 礼子(NPO 法人 小諸町並み研究会)	17
・庄川流域の合掌造り家屋:岐阜県大野郡白川村 松本 継太(白川村教育委員会)	18
<ul><li>・東御市海野宿 - 長野県東御市海野宿:堀田 雄二(東御市教育委員会)</li></ul>	19
・千曲市の絹の道、点と点 長野県千曲市:矢島 宏雄(千曲市教育委員会)	20
・群馬県の養蚕民家と集落:中村 武 (NPO 法人 街・建築・文化再生集団)	23
・群馬県昭和村の養蚕民家 群馬県昭和村:兵藤 喜孝(昭和村村会議員※文教産建常任委員委員長)	24
・世界文化遺産となった荒船風穴・群馬県(富岡製糸場と絹産業遺産群): 大河原 順次郎 (群馬県下仁田町教育委員会)	25
・旧安田銀行担保倉庫 群馬県前橋市:村上 雅紀(上州文化ラボ)	26
・絹遺産:人物 - 蚕都豊橋の基礎を築いた「小渕しち」: 中村 武(NPO 法人 街・建築・文化再生集団)	27
・蚕影(こかげ)神社 茨城県つくば市神郡:居島真紀・木村美希(筑波山麓わた部)	28
・旧東光社女工寄宿舎 ・桜川市真壁町桜井:藤川 昌樹(筑波大学教授)	29
<ul><li>・飯能織物協同組合会館:浅野 正敏(一般社団法人埼玉県建築士事務所協会)</li></ul>	30
・飯能地方のはたおり唄から「うちおり」ビデオを制作:石井 英子(飯能の"みんよう"保存会)	31
・甲州市塩山下小田原上条伝統的建造物群保存地区 (茅葺切妻造民家): 飯島 泉 (甲州市教育委員会)	32
・旧蚕糸試験場日野桑園第一蚕室と仲田の森遺産発見プロジェクト東京都日野市:	
田中 和夫 (仲田の森遺産発見プロジェクト/街・建築・文化再生集団/東京都立田無工業高等学校)	33
・全国の鋸(のこぎり)屋根:吉田 敬子(写真家)	34
・開港の街横浜・山手西洋館の管理運営について:酒井 浩次(公益財団法人 横浜緑の協会)	35
・シルクロード・ネットワーク・横浜フォーラム 2015「シルクでつなぐ街と人」: 3 月 14 日(土)見学会	37
・シルクロード・ネットワーク・横浜フォーラム 2015「シルクでつなぐ街と人」: 3 月 15 日(日)フォーラム	38

## ● 3月14日(土)見学会「関内周辺の絹遺産をめぐる」

横浜市開港記念会館→日本大通→旧三井物産横浜支店倉庫→本町通り→中居屋重兵衛碑→横浜第二合同庁舎(旧生糸検査所)→ 旧横浜生糸検査所付属生糸絹織物専用倉庫 ※交流会

## ● 3月15日(日)プログラム シルクロード・ネットワーク・横浜フォーラム2015

- 11:00 あいさつ 公益社団法人横浜歴史資産調査会 (ヨコハマ ヘリテイジ) 宮本 忠 あいさつ NPO 法人街・建築・文化再生集団理事長 星 和彦
- 11:10 シルクロード・ネットワーク設立に向けて 公益社団法人横浜歴史資産調査会(ヨコハマ ヘリテイジ)常務理事 米山淳一
- 11:20 【記念講演】「絹の歴史と文化・原三溪」川幡留司氏(公益財団法人 三溪園保勝会) 【基調講演】「横浜の絹関連建造物の魅力」吉田鋼市氏(横浜国立大学名誉教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会副 会長)
- 12:30 記念コンサート 後藤泉 ~ピアノが奏でる絹・横浜~ (エルガー:愛の挨拶、ドビュッシー:月の光)
- 14:00 事例報告: 山形県新庄市、岡谷蚕糸博物館、片倉館、長野県上田市、長野県千曲市、群馬県・昭和村・下仁田町・前橋市、茨城県つくば市・筑波大学、埼玉県飯能市、山梨県甲州市、東京都日野市、全国のこぎり屋根
- 16:00 設立アピール

## 生糸産業とヨコハマ、そして原三溪

#### 西 和夫(神奈川大学名誉教授)

富岡製糸場(群馬県)が世界遺産になり、観光客が押し寄せている。日本の製糸の歴史に注目が集まるのは大いに歓迎するが、 日本の製糸業は富岡だけではもちろんない。なのに富岡以外はあまり知られていないのは残念なことだ。

たとえば長野県。ここにもさまざまな製糸関係遺産がある。しかし忘れられてしまうのではないか、と長野県の人が心配していた。

横浜も製糸に関係が深い。だがヨコハマは近代都市だ、ということしか知らず製糸に関係があることを忘れている人が多いのではないか。富岡が世界遺産になったときヨコハマも生糸ゆかりの都市だと気付いた人がどれだけいただろうか。

たとえば、取り壊しで話題になった旧三井物産倉庫がそのひとつだ。日本の各地から集められた生糸がミナトヨコハマから輸出され、その関連建造物として大切な存在なのにすっかり忘れられている。生糸検査場がある、ということに気付けば、そうか、ヨコハマも生糸に関係があったのだな、と思う人もあるだろう。ヨコハマは言わば日本のシルクロードの終着点だった。

もうひとつ、忘れてならないのは原三溪富太郎のことだ。彼が生糸産業の人だったことはよく知られているだろう。だが、これは不思議といってもよいが、原三溪が生糸産業のひとだとは知っていても、ヨコハマが生糸産業の町だと思っている人は意外に少ない。

ョコハマで原三溪というと、美術品収集者としてよく知られている。そしてもうひとつ、本牧の三溪園を造った人としても知られているだろう。茶人として、数寄者として知っている人がいるかもしれない。

三溪園は、原三溪の自邸とその庭である。三溪(慶應 4 年・1868 生まれ、昭和 14 年・1939 没)は、養祖父原善三郎の死去(明治 32 年)のあと原家を継ぎ、今の三溪園の地に善三郎の持っていた敷地を受けて自邸と庭を整備した。明治 35 年頃のこととされている。明治 39 年には庭の一部(外苑部分)を公開した。以後横浜市民に親しまれている。自邸が完成して住み始めるのは明治 42 年 9 月 24 日であった。

旧天瑞寺寿塔覆堂(明治35年京都大徳寺内から移築、同38年完成)、臨春閣(明治38年ころ入手、大正6年完成)、聴秋閣(大正11年移築)など優れた建物を各地から次々に移築し、現在、まるで建築博物館のようだといわれている。いずれも現地では維持できなくなったものを引き取り、見事に再生させた。三溪は優れた建築を見分ける力を持っていた。古美術と同様に建築も好きだと書いている彼は、独自の審美眼のもとに建築を生き返らせ、庭と一体になった素晴らしい三溪園を造りあげた。

それを可能にしたのが彼の経済活動だったことはいうまでもない。だから、広い意味では、三溪園もヨコハマの生糸産業に関連したものと理解して差し支えない。こう考えればヨコハマはますます生糸産業の都市なのである。

ョコハマを近代化だけに結びつけて見ていては歴史理解として不十分である。旧物産倉庫ひとつ残せないような町でこれをいくら叫んでも無駄だと言われてしまいそうだが。

※西和夫先生は本年1月3日急逝されました。ご冥福をお祈りいたします。



臨春閣



聴秋閣

写真:上村耕平

## 「絹の歴史・文化と原三渓」

#### 川幡留司(公益財団法人 三溪園保勝会)

#### 1. 絹の歴史

紀元前 3,000 年頃、中国に始まると云われている。

かつて無い絹の心地よい肌触り、光沢、品の良さにて中国の特産品として中国の西城、ペルシア、シリアを経て遠くローマ、エジプトにも伝えられた。

エジプトでは、紀元前 1,000 年前の中国製絹の布が発掘された。

ローマでは絹が珍重され多量の金が流出してしまうので、ローマ帝国初代皇帝オクタヴィアヌスはすべての人に絹製衣類 の着用を控えるように伝えた

#### ●日本への絹の伝来と発展

弥生時代、BC3世紀頃、中国から朝鮮経由にて伝えられる。

卑弥呼・壱与の時代、正治 4 年 (243) 倭錦等 4 種の絹性織物を魏王に献上。

飛鳥・奈良時代、大化改新 (646) 以後、納める税の中に絹の名がみられます。

平安時代、貴族の全盛時代にて、絹製品愛用のため良質生糸、絹織物を生産。

室町・安土桃山時代、度重なる戦いにて、製糸、織物業停滞。

江戸時代、室町から当時代初期、必要な生糸は中国から輸入。銀、銅の流出。

甚だしく、輸入を大幅に制限。以後、我国の製糸、絹織技術発達。

幕末には中国より高品質生糸を生産。このため開港時、欧州では微粒子病が万円、日本の生糸がよく売れた。

明治・大正・昭和時代、富岡製糸場建設にて、急速に手繰りから器械製糸となり、製品の出来栄えが揃い、また大量 生産も可能となった。よって、微粒子病解決後も日本の生糸は当初欧州で、後年は輸出の主はアメリカとなった。

#### 2. 文化と原三渓

三渓園の創設:明治初年、原家初代善三郎本牧に別荘を設け、造園に着手。

明治 39 年:外苑が完成、市民に 24 時間無料公開。昼間はお茶を提供。

海岸広場:小学校、町内会、会社等の運動会、慰安会等の会合も使用。

建造物:待春軒、寒月庵は、茶会、俳句、短歌等の会合で使用出来た。

海岸:潮干狩り、海水浴が出来た。八幡橋船着場から船でも来られた。

大正 12 年春、内苑完成。私庭なれど庭園、建築、美術などの研究・愛好家、茶人等は見学・使用できるよう配慮。 内外の客人跡を絶たず。

建築物・美術品の収集、維持保存に貢献。

臨春閣:元紀州徳川家別荘、慶安2年(1649)和歌山県紀の川沿いに建立。

聴秋閣:京都二条城に徳川家光が建て、春日の局が拝領、江戸青山に移築。

茶会を開催、伝統芸能の維持発展に尽力。

日本美術院の画家などを後援(画家の横山大観、下村観山、今村紫紅、安田靫彦、小林古径、前田青邨、速水御舟、

彫刻家の米原雲海、平櫛田中、等)



## 横浜の生糸に関わる建築遺産

#### 吉田 鋼市(横浜国立大学名誉教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会副会長)

- 1. 生糸が支えた日本の近代
- ・戦前までの輸出の主力は常に生糸。横浜港の輸出品の8割を占めたこともあり、戦前を通じて輸出の半分近くが生糸。生糸に次ぐのが、当初は茶。明治半ば以降は絹織物。
- ・生糸の輸出は横浜が中心(神戸は綿花輸入・綿糸輸出が主力)。各地の生糸が横浜に集まる(「絹の道」)。養蚕農家は製糸業も行うようになる。横浜の貿易が各地の養蚕農家を支え、中部地方を中心とした大小の製糸業を支えた。
- 2. 横浜生糸検査所の歴史
- ・1896 年 (明治 29 年) 本町 1 丁目 (現在の横浜地方検察庁の場所)の木造庁舎で業務開始 (庁舎の監督は遠藤於菟)。 1902 年 (明治 35 年)、1908 年 (明治 41 年)に煉瓦造で増築 (設計は遠藤於菟)。1918 年 (大正 7 年)、鉄筋コンクリート造で大規模な増改築 (設計は遠藤於菟。後に横浜地方検察庁となり、1982 年解体)。
- ・1926 年 (大正 15 年)、現在の横浜第2合同庁舎の地に新庁舎完成。設計、遠藤於菟。施工、大林組。震災復興期の最大の建築、フラットスラブ (梁を用いない構造)を使用。遠藤は震災前の 1918 年の生糸検査所でも一部でフラットスラブを使用。後の三井物産増築部でもこれを使用。庁舎、四棟の同形同大の倉庫、倉庫事務所からなる。壁の煉瓦張りはタイルではなく実際の煉瓦。フラットスラブを支える円柱は階が上がるごとに細くなる。1932 年増築。1990年解体、外観は再現。2008 年、当初から生糸検査所から借りて運用していた帝蚕倉庫の倉庫 1 棟と倉庫事務所(横浜市有形文化財)を残して解体。
- ・生糸検査所の創建当初から常に遠藤於菟 (1866-1943) が関与。生糸検査所の建築の歴史は遠藤於菟とともにある。 遠藤は慶応元年、木曽福島生まれ。明治 27 年、帝国大学造家学科卒業。翌年、横浜税関の税関倉庫の工事監督に 携わることから始まり、横浜に常に関わる。横浜正金銀行本館(神奈川県立歴史博物館)の施工監督。明治 38 年、 横浜の南太田に設計事務所開設(同 40 年、山下町に事務所移転)。大正2年、東京・四谷に転居。昭和 18 年、逝去。 東京高等商業学校専攻部(大正5年、後に岩波書店)、明治大学予科教室(大正 10 年)、東京日々新聞社 3 号館(大 正 11 年)などを設計。
- ・遠藤設計の現存作品、三井物産横浜支店、旧帝蚕倉庫C号倉庫と旧帝蚕倉庫事務所。 旧帝蚕倉庫C号倉庫倉庫内部







倉庫内部

#### 3. 旧三井物産横浜支店

- ・1911 年 (明治 44 年) 竣工。1927 年 (昭和2年) 増築。最 近解体された倉庫 (旧日東倉庫) の竣工は 1910 年 (明治 43 年)。 施工は直営。
- ・日本最初の全鉄筋コンクリート造とされる。1927 年の増築部分にはフラットスラブを使用。
- ・生糸輸出の最前線。倉庫保管の生糸は国家財政を左右した とも言われる。戦後はララ物資配布の要の機関として使用され た。明治期は野沢屋(茂木惣兵衛)、亀屋(原善三郎)も今日 の財閥とともに生糸輸出で活躍。
- ・2013 年から KN 日本大通ビルとなる。

#### 4. シルクセンターの建築

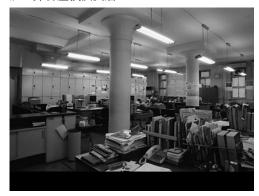
- ・1959 年 (昭和 34 年) 竣工。設計は坂倉準三建築研究所、施工は鹿島建設。坂倉準三 (1904-1968) は県立近代美術館 (1951)、県庁新庁舎 (1966) などの設計者で、神奈川のモダニズムの公共建築の先導者。前川国男と共に「会館知事」内山岩太郎の斬新で活発な建設事業を担う。
- ・横浜開港 100 年事業の一環。神奈川県、横浜市(1951 年に 政令指定都市)、絹業団体などの横浜財界が参加。シルク博物 館、横浜生糸取引所などの施設が置かれる。5 階以上は当初 はシルクホテル(1982 年閉鎖、現在はSOHOの事務所)。
- ・敷地は英一番館跡。横浜最大の外国商社ジャーディン・マセソン商会(一時は横浜の輸出の2割を占有)があったところ。横浜市が無償譲渡。「シルク通り」には生糸に関わる外国商社がたくさんあった。デローロ商会(旧居留地91番館)の塀(明治初期)はその遺構。

#### 5. 生糸と関わる現存の民家

- ・二俣川・和泉・瀬谷・阿久和を中心に明治期には 40 以上もの製糸工場が農家に付設してあった。その希少な遺構が旧清水製糸場本館(天王森泉館)で、1911 年(明治 44 年)頃の建設。1931 年に現在地に移築。ただし、製糸工場自体は失われている。
- ・旧大岡家長屋門(長屋門公園内)は 1887 年(明治 20 年)の建設。2 階を養蚕室として使用。
- ・新川家住宅は 1911 年 (明治 44 年) 頃の建設。両妻かぶと造で、 小屋裏を採光。そこで養蚕を行う。養蚕業最盛期の農家の特 徴を残す。
- ・県内では、愛川町半原や津久井町に大正期から昭和初期に かけて建てられた撚糸工場・製糸工場がいくつか現存。



旧三井物産横浜支店





旧清水製糸場本館(天王森泉館)



旧大岡家長屋門(長屋門公園)

## 山形県新庄市

#### 加藤 明(山形県新庄市商工観光課クールジャパン新庄推進室)

旧農林省蚕糸試験場新庄支場は、昭和9年に「蚕業試験場福島支場新庄出張所」として発足。施設の建設が進められて昭和11年より事業を開始しました。その後、昭和12年に「蚕糸試験場新庄支場」、昭和33年に「蚕糸試験場新庄原蚕種製造所」、昭和43年に「蚕糸試験場新庄原蚕種試験所」と改称を重ね蚕種の研究や桑の栽培等、戦中から戦後にかけて一貫して蚕糸業の発展に寄与してきました。

この施設は、国の行政改革により昭和58年5月、「蚕糸試験場蚕育部原蚕種第一研究室及び農業生物資源研究 所遺伝資源部保存法第二研究室」に改組され、幾度の組織改変の後、「東北農業試験場畑地利用部畑作物栽培生理 研究室」を最後の名称として平成12年3月に閉所されました。

その後、平成14年2月、新庄市に譲渡され、同年8月から「新庄市エコロジーガーデン」として蚕糸研究の歴 史を紹介するとともに、自然環境を学び、交流の場を提供する施設として活用してきました。

平成25年3月29日に庁舎や蚕室、廊下等を含めた建造物 10 件が登録有形文化財 (建造物) として登録されました。

- ■開園時間 午前 9 時 午後 5 時
- ■入園料 無料
- ■休園日 火曜日、年末年始
- ■施設情報 〒 996-0091 新庄市十日町 6000-1

電話 0233-29-2122 Mail ecology-g@ic-net.or.jp



- 新庄市名誉市民 平塚 英吉(ひらつか ひできち) -

明治21年、山形県新庄市小田島町に生まれる。第二高校から東京帝国大学農科大学に進み、ビタミンの発見者として有名な鈴木梅太郎博士と運命的な出会いをし、以後研究者としての道を歩む。大正15年から20有余年にわたり農林省蚕業試験場長と東京帝国大学教授を兼任し、国内外に高く評価されている蚕の栄養に関する研究をはじめ、化学的手法によりわが国の養蚕技術の基礎を確立した功績で、昭和46年、文化功労者として顕彰された。

この栄誉により、翌年、新庄市第1号の名誉市民の称号を贈られる。 昭和59年、96歳で逝去。その後、郷土の人材を育成する目的で 設立された最上育英会に平塚英吉賞が創設され、現在も郷里にその名 を止めている。(1888 1984)



#### - 新庄亀綾織 -

新庄の伝統の絹織物「新庄亀綾織(かめあやおり)」。新庄藩 9代藩主戸沢正胤(まさつぐ)が文政13年(1830)に技 術者を招き、藩の特産品として奨励したのが始まりです。 明治末期に生産が途絶え " 幻の織物 " と呼ばれていましたが、昭和60年(1985)に新庄亀綾織伝承協会が発足し「紗綾形」「八つ橋織」などの復元に成功。その後も織の復元と伝承活動を続け、現在では 20種類以上の折り目模様がある。亀綾織は織り上げて から染色するため、しっとりした風合いと光沢が特徴で気品の ある色が美しい織物としておみやげや贈り物にも喜ばれています。

平成13年(2001)に新庄駅前通りに体験工房「機織り長屋」を開設。見学も自由で、展示販売もしています。

- 新庄亀綾織伝承協会「機織り長屋」
- ■開館時間 午前 10 時 午後 5 時
- ■休館日 毎週水曜日、年末年始
- ■入場料 見学無料
- ■体験料 1,000 円
- ■施設情報 〒 996-0023 新庄市沖の町 10-8

電話 0233-22-0025



## 旧蚕糸試験場新庄支場

#### 新庄市エコロジーガーデン「原蚕の杜」

旧農林省蚕糸試験場新庄支場は、昭和9年に「蚕業試験場福島支場新庄出張所」として発足。施設の建設が進められて昭和11年より事業を開始しました。その後、昭和12年に「蚕糸試験場新庄支場」、昭和43年に「蚕糸試験場新庄原蚕種試所」と改称を重ね蚕種の研究や桑の栽培等、戦中から戦後にかけて一貫して蚕糸業の発展に寄与してきました。

この施設は、国の行政改革により昭和58年5月、「蚕糸試験場蚕育部原蚕種第一研究室及び農業生物資源研究所遺 伝資源部保存法第二研究室」に改組され、幾度の組織改変の後、「東北農業試験場畑地利用部畑作物栽培生理研究 室」を最後の名称として平成12年3月に閉所されました。その後、平成14年2月、新庄市に譲渡され、同年8月から「新庄 市エコロジーガーデン」として蚕糸研究の歴史を紹介るとともに、自然環境を学び、交流の場を提供する施設として活用してき ました。平成25年3月29日に庁舎や蚕室、廊下等を含めた建造物 10件が登録有形文化財(建造物)として登録されました。



#### - 主な沿革 -

昭和 9年12月 蚕業試験場福島支場新庄出張所として開設

昭和 12 年 5 月 蚕糸試験場新庄支場に改称

昭和 33 年 10 月 蚕糸試験場新庄原蚕種製造所となる

昭和 43 年 4 月 蚕糸試験場新庄原蚕種試験所に改称

昭和 58 年 12 月 蚕育種部原蚕種第一研究室に改組

昭和 63 年 10 月 農業生物資源研究所遺伝資源第二部植物栄養体保存研究チームに改称

平成 5年10月 東北農業試験場作物開発部遺伝資源利用研究室に改組

平成 12 年 3 月 閉所

平成 14 年 2 月 新庄市が国から跡地の譲与を受ける

平成 25 年 3 月 建造物登録有形文化財に登録

平成 26 年 3 月 未来に伝える山形の宝に登録

■開園時間 午前 9 時 午後 5 時

■入園料 無料

■休園日 火曜日、年末年始

■施設情報 〒 996-0091 新庄市十日町 6000-1 電話 0233-29-2122 Mail <u>ecology-g@ic-net.or.jp</u>



## 主な活用状況

平成 14 年 9 月 新庄市エコロジーガーデン「原蚕の杜」開園

旧庁舎の一部に資料展示室を開設

産地直売所「まゆの郷」開設

平成 15 年 4 月 新庄亀綾織伝承協会に庁舎資材庫の一部使用を許可

平成 15 年 6 月 NPOもがみに本庁舎事務室の一部使用を許可

平成 17 年 10 月 新庄市パークゴルフ協会に南側エリアの一部使用を許可

平成 18 年 4 月 新庄ひつじネットワークに庁舎交流室の一部使用を許可

平成 21 年 11 月 最上地域有機農業推進協議会事務所を本庁舎内に設置

平成 22 年 10 月 若者園芸実践塾「勇気塾」開設

平成 23 年 10 月 花の風の会による花壇整備を実施

平成 24 年 6 月 利用団体による交流拡大プロジェクト実行委員会設立

平成 24 年 7 月 kitokitoMARCHE 開始

平成 25 年 3 月 登録有形文化財へ登録

平成 25 年 9 月 kitokito 環境芸術祭を開催

# kito kito

こだわって育てられた農産物や加工品、雑貨など約 30 点が軒を連ねる手作り市。5 月から 11 月の毎月第 3 日曜日に開催しています。建造物のレトロな雰囲気と緑の木々に囲まれた空間に多くの市民が集います







## kitokitoART EXHIBITION 環境芸術祭

建造物や緑の意義に囲まれた園内にアートを展示。県内外のアーていっすとがランドスケープによる作品を制作。9月の開催期間中は、歴史と文化が漂う空間で、環境芸術に触れることができます。







## 岡谷近代化産業遺産群 長野県岡谷市

#### 高林 千幸 (岡谷蚕糸博物館)

岡谷市は、明治初期、外国との貿易開始に伴って、諏訪式繰糸機を独自に開発したことにより、わが国の生糸の一大生産地として発展し、その生糸は海外へ輸出され、「シルク岡谷」として、世界にその名を馳せました。その技術は全国へと普及し、わが国の近代化に大きく貢献しました。

平成 19 年度、経済産業省は、地域の新たな魅力ある観光資源として役立てるために地域史や産業史を軸とするストーリーを選出し、「近代化産業遺産群」としてとりまとめました。その 33 ストーリーの中で岡谷市は、「上州から信州そして全国へ」で、以下 15 件の資産が認定されました。それらの資産の中には、岡谷蚕糸博物館所蔵資料が含まれています。

岡谷蚕糸博物館―シルクファクトおかや―は、江戸時代からの蚕具、製糸器具・機械類や資料を時代的背景に基づき展示するわが国唯一の蚕糸に関する博物館として昭和 39 年 10 月に開館しました。これまでの 50 年間、地元はもとより、全国から多くの皆様にご来館頂き、わが国の近代化の礎を築いた製糸業の姿と先人の偉業を学んで頂くとともに、カイコ、繭に始まりシルク全般に触れる生涯学習の場としてご利用頂いています。平成 26 年の 8 月にリニューアルオープンし、宮坂製糸所を併設し、繭から糸にする製糸工場を見学・体験できる世界でも類まれな博物館に生まれ変わりました (写真 1)。

#### ■岡谷市内近代化産業遺産群の紹介■

- ・鶴峯公園:片倉組の初代片倉兼太郎が製糸工場で働く従業員のために、大正 6年片倉尋常小学校を開校した所で、日本有数のツツジの名所(写真2)。
- ・旧片倉組事務所:明治 43 年に建築された片倉組の事務所で、初代・二代片 倉兼太郎の活動の拠点となりました。国登録有形文化財。
- ・旧林家住宅:一山カ林製糸所の初代林国蔵の住宅で、「幻の金唐革紙」の和 室は一見の価値があります。国指定重要文化財。
- ・成田公園:大正 6 年、昭和天皇の立太子の記念に造られました。製糸業の発展に多大な貢献をした第十九銀行頭取黒澤鷹次郎の銅像があります。
- ・丸山タンク:大正3年、天竜川から製糸工場へ給水するために造られました。金属製タンクを載せた外径12m、3重構造のレンガ積の土台が残されています。
- ・旧山一林組製糸事務所・守衛所:大正 10 年に建てられた山一林組の事務所で、昭和 2 年に製糸工場で起きた最初の争議「山一争議」として有名になりました(写真 3)。国登録有形文化財。

これらの他に、株式会社金上繭倉庫、蚕霊供養塔、旧岡谷上水道集水溝、旧岡谷市役所庁舎、旧蚕糸試験場所蔵機械等、新増澤工業株式会社所蔵機械、旧山上宮坂製糸所、丸中宮坂製糸所繭倉庫があります。これらの遺産を徒歩やレンタサイクルでめぐる東回廊、西回廊のコースを設けています。

岡谷蚕糸博物館 -シルクファクトおかや-(写真1)



アプローチ



展示室 (動態展示)



宮坂製糸所(動態展示)



写真 2 鶴峯公園



写真3 旧山一林組製糸事務所

## 日本最初の民間器械製糸所「二本松製糸会社」

#### 中村 武 (NPO 法人街・建築・文化再生集団)

日本最初の民営器械製糸所は、明治六年(1873)七月に二本松城址の中に、小野組の経営で「二本松製糸会社」として開設されました。製糸場長佐野理八(1844 1915)は、製糸所開設にあたって、日本最初の器械製糸所「藩営前橋製糸所」を設立した速見堅曹の指導を受けたとのことです。

速見は、前橋製糸所において、全国から製糸技術の伝習希望者を受け入れ、器械製糸技術の普及を図るため、伝習者の指導を行っていました。この事から、二本松城址に製糸場を開設したい意向のあった福島県令から指導を懇請され、福島県の二本松製糸会社の創設に協力する事になりましたが、製糸場の経営は、民間の手に委ねなければならないとの持論があることから、県令の意に反して運営を民間の小野組に任せることになりました。速見は、製糸場が軌道に乗ったことを確認して翌年三月に二本松を離れました。

その後、二本松製糸会社は解散、地元の有力者山田脩 (1841 1921) 等に譲渡、明治十八年、山田の個人経営の「双松館」として再出発をしますが、12 年ほどで再び解散したようです。製糸場は、戊辰戦争に敗れた藩士の授産事業の側面もあったようです。山田は、後に三代目二本松町長になり、町民から「郷里の三尊」と崇められているそうです。城址に銅像が建てられています。

二本松製糸会社は、かつて群馬から福島へ、そして横浜へ繋がっていたシルクロード・ネットワークの一つの証です。 私たちは、新たなシルクロード・ネットワークとして何が出来るか考えなくてはならないと思います。



二本松製糸会社:横浜開港資料館官報「開港のひろば」より

## 現代に活きる・伝えたい - 片倉館の地域への想い

長野県諏訪市山崎茂(片倉館 館長)



明治六年、初代兼太郎24歳の時に自宅前の小屋で「十人繰の座繰り製糸」を始め、その後、明治から大正にかけて製糸業(シルク)で成功をおさめ「片倉財閥」と言われるまでにのぼりつめた。片倉館の創設者は「製糸王」と呼ばれた事業家で、二代 片倉兼太郎である。片倉館設立のきっかけは、片倉製糸紡績社長の二代・兼太郎は大正11年から12年にかけて南北アメリカ 欧州へ全行程約8万 km に及ぶ視察旅行の際ヨーロッパ各国の農民には充実した厚生施設が整っている事に強い感銘を受け特に当時のドイツ領、カルルスバットに在った厚生施設に強い関心を覚えた。帰国後、我が国にも是非そのような地域住民のための施設を提供したいと一族に図り、一族の有志によって上諏訪に住民のための温泉・社交・娯楽・文化の向上を目的とした片倉館が誕生した。

設立目的は「地域の方々が気軽に楽しめる日帰り温泉利用施設を作りたい」という目的であり、工女さんのためのお風 呂ではない。「健康増進(温泉・入浴)」「社交の場」「娯楽」「文化の向上」を目指した。

片倉館の公開にむけ、会館棟は原則非公開であったが2013年12月10日よりガイド付きによる公開へ踏み切った。 国重要文化財指定箇所と会館棟を中心にわかりやすく解 説している。(見学 者受 入れ実 績:2013.12.102015.1 = 7587名)。昨年(平成26年)、世界文化遺産登録された群馬県「富岡製糸場」との関わりなども説明する。⇒明治5年「官営模範器械製糸工場」としてスタート後、民間企業(三井家)に払い下げ、原合名会社に譲渡、最後は昭和14年片倉製糸紡績株式会社に合併。昭和18年社名も「片倉工業株式会社」へ変更。片倉の「売ない、貸さない、壊さない」の3原則のもと維持管理(66年間)、平成17年富岡市に建物等を寄贈。

地域への想いの継承し、我々は「片倉家の想いや精神を今に伝える施設の中で、当時の設立目的を継承する唯一のものです。片倉館は今年で87年目を迎えますが、設立目的は変わっていません。地域の皆さんをはじめ大勢の方々にご利用いただいてこそ存在価値が生まれるのです。世界の人々に愛され、一度は訪れて見たいお風呂施設ナンバーワンを目指したいものです。これからも、多くの皆さんのご来館をお待ちしております。」この思いを胸に日々この土地で活動をひろげている。



## 蚕都上田の絹遺産 ~蚕種から製糸まで ソフトとハードの高融合~- 長野県上田市 - 中沢 徳士(上田市教育委員会)

幕末から世に出た上田市塩尻地区の優れた蚕種製造は世界を席巻するまでの良質な蚕種を生産した。養蚕農家は この種をもとに優れた蚕と繭を育て、製糸工場では、そ1の繭から良質な生糸を生産し、世界に進出した。上田地域 の絹遺産は、これらが体系的に遺る点が特長となっている。

上田地域ではまた、明治期から蚕種・養蚕・製糸の「産学官連携」が行われた。「産」では、前述の蚕種とともに、上田市丸子の依田川水系に製糸工場が林立し、岡谷から常田館も進出、上田地域の製糸は隆盛をきわめる。この裏には官による信越線の開通や、大屋駅などの請願駅の開設による横浜へのシルクハイウェイの確保がある。「学」では全国に先駆けて上田蚕種専門学校(現信州大学繊維学部)が設立され、優秀な人材と技術を供給した。

こうした、製糸に関するソフトとハードの体系が極めて高いレベルで融合し、その遺産は、蚕種製造を行った塩 尻の家屋群、蚕種貯蔵の風穴群、上田蚕種協業組合建物を皮切りに、市内随所に養蚕家屋群が残っている。そして、 民間の製糸工場の繭倉庫が建ち並ぶ旧常田館 (現笠原工業)、建設当時の姿をよく残す大屋・西上田駅舎、上田蚕 種専門学校 (現信州大学繊維学部)の遺構として、いまも「蚕都上田」の繁栄今に伝えている。



旧帝蚕倉庫C号倉庫

## 信州小諸「糸都」(しと)として栄えた城下町 荻原 礼子(NPO 法人 小諸町並み研究会)

#### ・小諸に多く残る蚕糸業の歴史遺産

明治時代にいち早く富岡に学び製糸業を興した小諸には、 現在もたくさんの蚕糸業にかかわる歴史遺産が残されてい ます。

駅前にはかつての繭間屋の建物とその蔵がセットで残っており、蔵は「くらしかる浪漫館」という蚕糸の歴史を伝える資料館となっています。また、小諸の町並み、島崎藤村、周辺の養蚕農家の集落など、多くの歴史的資産が蚕糸業と深く係わっているものです。

#### ◆糸都・小諸の歴史

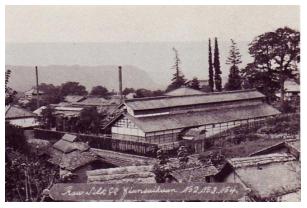
小諸市での器械製糸の歴史は、明治 7 年からはじまります。豪商・高橋平四郎が、「丸満製糸場」を創業したのが最初です。この製糸場は、長野県下で最初の民間製糸工場でした。明治 18 年に丸満製糸場が廃業した後、その跡地を利用した器械製糸場「浅岳社」ができました。88 もの釜を持つ大きな製糸工場でした。

明治 23 年には、豪商・小山久左衛門が 100 釜の製糸場「純水館」を創業しました。明治末期には 10 以上の工場ができ、小諸は「糸都」と呼ばれるほど活気ある製糸の町となりました。街道沿いの豪商の町並みや、島崎藤村が教鞭をとった小諸義塾の設立も蚕糸業の繁栄あってのものです。

製糸業の繁栄とともに養蚕が盛んになり、昭和 18 年頃には小諸町の農家の半数以上が蚕を飼っていました。それは農家の収入を増やし、商都小諸をさらに繁栄させる要因の一つとなりました。現在、浅間山麓や千曲川沿いに点在する集落に残る歴史的な民家の大半は養蚕農家の建物です。

## ◆ NPO や市民グループでの取り組み

NPO 法人小諸町並み研究会では、長年これらの歴史 資産の掘り起こしや保存活用の取り組みを続けてきました。 また、昨年からは有志により糸都小諸を見直そうという動 きも始まっています。



純水館・第2、3、4工場 出展 小諸市誌



今も駅前に残る繭問屋の建物



繭倉庫(くらしかる浪漫館/休館中)



養蚕農家の集落(宮沢)

### 庄川流域の合掌造り家屋

#### 岐阜県大野郡白川村 松本 継太(白川村教育委員会)

飛騨ではすでに元禄期以前から養蚕・生糸の生産が行われていたとされており、16 世紀初頭の文書には当時の、飛騨国中における養蚕業の盛況地として益田郡内の八郷、吉城郡内四郡、大野郡内三郷が挙げられ、この大野郡内三郷には白川郷が含まれている。よって白川はかなり早い時期から飛騨における養蚕・生糸生産の先進地であったとされている。また、近世期の加賀絹の生産地だった小松の糸商人の文久元年(1861年)の覚書によると、生糸の品質等級において、飛騨白川糸が竪糸として最高位にランクされており、その品質も優良であった。幕末には飛騨の殆どの村で養蚕が行われていたが、「斐太後風土記」の明治3年の産物記載によると近世白川郷の中でも現在の白川村にあたる23か村(近世白川郷は現白川村23か村と現高山市荘川町18か村、清見町の1村を白川郷としていた。)の一戸当たりの繭の生産量は当時の飛騨414か村のうちで最高の生産量であり、白川は幕末から明治にかけ飛騨屈指の養蚕村であったことをうかがい知ることがきる。

明治初期になると飛騨に製糸場ができはじめるが、白川の生糸については自ら糸挽きを行う自家製糸形態が中心であった。製糸場は飛騨の近隣町場の高山・古川・船津にみられ、町場に生糸の生産量が集中し中でも高山が2463貫と一番の生産量であった。しかしそんな中でも険しい山村であるにもかかわらず白川はそれに継ぐ古川・船津と匹敵するほどの生産量があり明治初期の飛騨において町場の製糸場と肩を並べるほどの生産量を誇る自家製糸業の最も発達した地域であった。この飛騨における白川の生糸生産発達の背景には越中城端との交易が大きく関わっていると言われており、越中との国境に位置する白川の場所性が養蚕業発達の後押しをしていたことは明らかである。以上のように近世の白川の養蚕業は飛騨の中でも屈指の発達地域であったことがわかる。

こうした近世養蚕業の発達の歴史を背景に庄川流域の村々にはこの地域特有の切妻造り茅葺き大規模民家「合掌造り家屋」が発達していく。合掌造りは屋根形態を切妻として三角形の妻壁を外部に露出させ開口部を設けることで小屋内の採光と換気を確保し小屋内で蚕を飼育することを可能にしている。その屋根形態の独自性から「合掌造り」という固有の名称がついた。合掌造り家屋がいつ成立したかについては未だわからないが、現存する最古の合掌造り家屋が17世紀後期建築と推定されていることから庄川上流域地域の養蚕盛業と相俟って発生したことは容易に想像される。大家族制研究の舞台となった重要文化財旧遠山家住宅(嘉永3年)や下呂に移築された重要文化財旧大戸家住宅(天保4年)、荻町の名主住宅重要文化財和田家住宅(19世紀中期)など合掌造りを代表する規模の大きい名建築は幕末建築のものが多いことからもこれら巨大な合掌造り家屋が幕末から明治にかけての白川の養蚕の発展を支えてきたと言える。そういった意味では合掌造り家屋は近世白川の養蚕業の隆盛を象徴する貴重な絹産業遺産であり、今後の研究により養蚕と合掌造り家屋の関わりをさらに明らかにしていきたいと思う。



## 東御市海野宿 - 長野県東御市海野宿

#### 堀田 雄二 (東御市教育委員会)

海野宿は、昭和62年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。北国街道の宿場町として寛永2年に開設され、江戸時代の建物が多く建ち並び、道路中央には水路と洗い場が残ります。江戸後期から養蚕業が盛んになり、明治時代には建物を改築したり、中庭に蚕室を建てたりして、多くの家が養蚕に取り組みました。これには、矢島行康の業績が大きく関わっています。平田篤胤の養子・鉄胤の門下で国学を修め、岩倉具視とも親交があり、富国産業政策による養蚕業に共感し、養蚕・蚕種業に力を注いで地域発展の礎を築きました。海野宿には、明治時代以降に建てられた建物も数多く、重伝建選定にあたり「宿場・養蚕町」とされたのもこれに由来します。

江戸時代に脇本陣を務めた矢島六左衛門家には、類例の少ない建物があります。昭和初期に建てられたRC造平屋建の建物は、冷蔵庫と呼ばれています。地下室には、氷を置く棚が造られた内側にコンクリート壁が二重に巡り、蚕種を保管する構造になっています。屋根は鉄板葺きで、断熱のため二重構造になっており、間には籾殻が充填されています。近年の修理工事により屋根は銅板葺きになりましたが、往時を彷彿とさせる屋根飾り(餝棟鬼・箱棟)や換気筒が復元されました。







## 千曲市の絹の道、点と点 -1 長野県千曲市 矢島 宏雄(千曲市教育委員会)

1. 重要伝統的建造物群保存地区「商家町 稲荷山」

平成 26 年 12 月 10 日、稲荷山の伝統的建造物群保存地区が、重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。 全国で 109 番目、長野県下では 6番目の選定である。

稲荷山は、弘化 4 年 (1847) の善光寺地震後の幕末から明治・大正・昭和初期の商家町である。特に、幕末から明治期の発展は著しく、明治 25 年 (1892) 頃の稲荷山町では、110 軒の商店のうち呉服商・生糸繭商・綿類紡績・打綿・染物・古着など 33 軒の繊維関係の商店や問屋が軒を並べ、また麦藁葺きの養蚕民家なども混在していた。長野県内で主要な商業地として発展した。稲荷山の繁栄の様子を、現存する土蔵造りの町家の建造物群が物語っている。稲荷山の繁栄の源は、江戸時代から続いた太物(綿花や綿織物)の集散地から、養蚕製糸業を中心とする商業地となったことである。それは、稲荷山が北国西街道の通る交通の要衝であったことに由来するものと考えられる。



山丹 (明治 10 年代) の次に建てられた建物



明治 14 年 (1881) 稲荷山銀行設立、明治 26 年に移転、第六十三国立銀行と名称変更



保存地区の北端から、北国西街道沿いの町家料理屋 「松葉屋」明治 10 年建築



弘化 4 年 (1847) 善光寺地震後に建てられた町家



明治 10 年代の建築、稲荷山のランドマーク的な建物



通りに軒を並べる建物 (糀屋・薬屋)

## 千曲市の絹の道、点と点 -2

#### 長野県千曲市矢島 宏雄 (千曲市教育委員会)

#### 2. 森の風穴

大字森字北ヶ塔地籍の山林内に、現在風穴小屋の石を積み上げた 壁体が残っているのみである。2 間× 5 間ほどの管理棟、2 間× 2 間ほどで石積みの壁体が高さ 2 mほど残る蚕種整理室 2 棟、冷蔵 室 3 棟の 6 棟の跡である。

明治 45 年 (1912) に横島兵五郎によって、風穴を利用した蚕種の貯蔵用に造られたものである。風穴の冷気を利用して蚕卵を冷蔵保存し、ふ化や出荷時期の調整がおこなわれた。この風穴を利用した埴科郡 (はにしなぐん)蚕種同業組合員は、約330人といわれている。

この頃、明治 42 年(1909)の畑地における桑園面積の比率では、 長野県下の平均 50.3%に対し、埴科郡 73.6%、更級郡 ( さらしな ぐん )56.7%と桑栽培が盛んであった。特に、自然堤防上の屋代 ( やしろ ) から雨宮 ( あめのみや ) 一帯の「屋代桑園」は、県下 でも有数の桑畑であったという。



山林内に痕跡が残り、小屋の石積みの壁体が残る



小屋の出入り口部の石積み

#### 3. 霊諍山(れいじょうざん)の石仏群

八幡 ( やわた ) の郡 ( こおり ) 集落の背後にある霊諍山には、明治 20 年代になって、修験系の講社が北川原権兵衛によって開かれ信者を集めた。養蚕が盛んな頃であったので、明治 25 年 (1892)に蚕影社 (茨城県)を勧請し、りっぱな社殿が造られ祀られたが、今では社殿はない。境内には、多数の石仏に混じって猫神の石仏が二体残る。猫神は、蚕の繭を鼠が食い破り中の蛹を食べることから、鼠の天敵である猫が蚕の守護神として養蚕農家では大切に祀られたという。民間信仰と世相が相まった、ユニークな歴史的遺産である。



明治になって祀られ、たくさんの石仏などが残る



猫神の石仏が2体



蚕影社の鬼瓦「蠶」

#### 4. 壽の繭蔵

しなの鉄道戸倉駅前に、木造四階建、切妻造、瓦葺の繭蔵が 1 棟建っている。戸倉駅が明治 45 年 (1912) に開業した後に、 五加銀行の繭蔵として建てられた。五加銀行は蚕種商の資金需要 をまかない「種屋の銀行」と呼ばれていたという。現在は、壽高 原食品㈱の倉庫として使われている。信越本線が、明治 26 年 (1893) に全線開通し、明治 29 年 (1896) に大屋駅が開業し 諏訪地方からの物資が和田峠を越えて運び込まれた。中央本線が 全線開通するのは、明治 44 年(1911) のことである。こうし た繭蔵は、県下でも取り壊されて数が少ない中で、市内で唯一の 戸倉駅前に残る (4階建て) ものである。



## 5. 力石 ( ちからいし ) 集落の養蚕民家群

上山田の力石集落には、幕末から明治期に建てられた養蚕民家が 20 棟ほど現存している。屋根には、気抜きの棟 木が特徴的な大きな民家である。こうした養蚕民家群を通して、かつて養蚕が盛んであったことがしのばれる。力石では、 蚕種生産が主におこなわれていたという。明治 42 年(1909) 蚕種の全国比 49.4%と、長野県はその半数を生産してい た。



気抜きを設けた養蚕民家



大きな主屋と蔵が並ぶ

## 群馬県の養蚕民家と集落

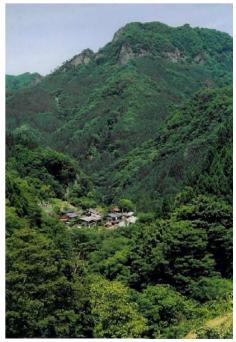
#### 中村 武 (NPO 法人 街・建築・文化再生集団)

かつて、群馬県は長野県や埼玉県等と並ん で全国有数の養蚕・製糸業が盛んな地域でし た。昭和 34 年には養蚕農家戸数は約 83,000 戸 (全農家戸数約 120,000 戸) 近く、 戦後最大の收繭量は昭和 43 年に 27,400 tを記録していますが、平成 25 年には戸数 181 戸、收繭量 57 t まで縮小しているそう です。

養蚕は、主に主屋の 1 階から小屋裏まで家 屋の全てを使い、養蚕期は蚕棚の隙間が家人 の寝床になるような状態で、主屋は住宅と言 うより繭の生産工場・装置と呼ぶのが相応し いと思います。

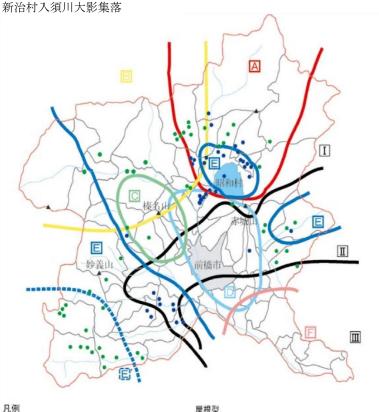
私たちは、養蚕を目的に特化した建物を養 蚕民家と呼んでいます。養蚕民家は、蚕種の 欧州輸出が始まる幕末期以降に成熟したも のと考えています。そして養蚕が衰退した現 在も群馬県内には数多くの養蚕民家が残り、 中山間村には、盛期を彷彿させる養蚕集落が 幾つも存在します。

私たちは、かつて絹産業を支え、「絹遺産」 の最上流である養蚕民家と集落を、多くの人 たちの知恵をお借りして、次世代に活かしな がら伝える方策を考えたいと思っています。



南牧村星尾中庭集落





## **—**群馬県 - 河川

- 山間部にある業事事務 平野部にある養蚕集落 間取り
- I 広間型(三間取り・不整形四間取り)が多く分布する地域 Ⅲ 広間型と整形四間取りが混在する地域
- Ⅲ 整形四間取りが主に分布する地域

#### 屋根型

- ▲ 妻カプト+平側に突き上げ屋根型が稠密に分布 平カプト+2階床セガイ造り壁が分布
- 寄せ棟・入りは屋+平側突き上げ屋根(棒名型)
- 寄せ棟・入り母屋+平側切り落し屋椎(赤城型)
- E 切り妻板葺き屋根が分布
- 主に切り妻石置き板葺き屋根が稠密に分布
- F 草葺き、瓦葺きの寄せ棟・入母屋、東南部に中門造りが分布 ※群馬県全域にわたって総二階セガイ造り・瓦或いは金属板葺きの 養蚕民家が草葺き民家と滞在している。

矢島 畔『上州の民家(みやま文庫34)』 1969 みやま文庫 群馬県教育委員会『群馬県民俗分布地図』1985 群馬県教育委員会 工学院大学後藤研究室·RAC共同調查資料

群馬県内の養蚕集落と民家型式分布図

## 群馬県昭和村の養蚕民家 群馬県昭和村

#### 兵藤 喜孝 (昭和村村会議員※文教産建常任委員委員長)

昭和村は、県北部、赤城山北西麓の利根川と片品川に挟まれた、8段とも言われる雄大な河岸段丘上に拓けた村落です。県内で農業が成り立っている数少ない村でもあり、「野菜王国」を標榜しています。

上部の河岸段丘は野菜畑で、北海道のような雄大な景観です。かつてここには桑畑と茅場が拡がっていました。主な集落は、下部の旧街道に沿った所にあり、大型養蚕民家が混在した歴史的景観を残しています。養蚕民家の残存数は全国一と言っても過言ではなく、全村域が「日本の最も美しい村」連合に加盟しています。

養蚕は、多いときには年に 4 5 回行われ、昭和 40 年代まで続いていました。その後、養蚕業の衰退に伴い、コンニャク生産が大規模養蚕民家を支えることになり、現在、昭和村のコンニャクの生産量は全国一です。大規模養蚕民家の蚕室は、コンニャク芋の貯蔵庫で活用されています。

昭和村には「糸井・貝之瀬家づくりゃ良いが、釜の蓋取りゃ鬼が出る」という俚諺があり、大規模養蚕民家を主屋とした屋敷の連なりは、 俚諺通りの養蚕集落景観を現在も見ることが出来ます。

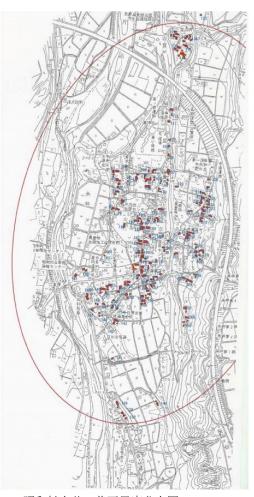
是非、昭和村の「絹遺産群」と野菜を味わいにお出掛け下さい。そ して絹遺産を継承していく為のご意見をお聞かせ下さい。



昭和村貝野瀬の養蚕農家H家



昭和村糸井寺前の養蚕農家H家



昭和村糸井の養蚕民家分布図



同左周辺

## 世界文化遺産となった荒船風穴 -群馬県(富岡製糸場と絹産業遺産群) -大河原 順次郎(群馬県下仁田町教育委員会文化財保護係)

産業遺産として国指定史跡となった荒船 (あらふね) 風穴 (ふうけつ)と東谷 (あずまや)風穴。風穴は天然記念物としての指定はあったが、産業遺産としては初めての指定となった。天然の冷風を利用して蚕 (さん)種紙 (しゅし)を低温貯蔵し、蚕の卵のふ化の時期を遅らせ、養蚕の多回数化と明治大正期の繭、生糸の増産に大きく貢献した施設です。特に夏 (か)秋 (しゅう)蚕(さん)の繭の増産は風穴によるものです。長野県稲核 (いねこき)(現松本市)で始まったとされる蚕 (さん)種 (しゅ)貯蔵技術は全国に広まったが、特に荒船風穴が秀でていたのは単なる蚕の卵を冷蔵倉庫で預かることだけにとどまらず、蚕種の改良や蚕種の仲介なども積極的に行ったことが挙げられ、預入先は全国40道府県に及びました。

今回、世界文化遺産となりましたが、日本のシルクロードを下支えしたのは全国にあった風穴であり、天然の冷風を利用しての蚕種貯蔵施設を代表して今回、世界遺産になったと思っています。なお、下仁田町周辺は上州座繰と呼ばれる方法で古くから糸取りをし、組合製糸が盛んな地でもありました。



## 旧安田銀行担保倉庫 群馬県前橋市

#### 村上 雅紀 (上州文化ラボ)

旧安田銀行担保倉庫は、大正 2 年 (1913) に前橋市住吉町 2 丁目 (旧細ヶ沢町 69 番地) に建設された煉瓦造倉庫です。倉庫は銀行の担保物件として集められた生糸や繭の保管庫として利用されていました。

当初は南側にもう一棟、同様の倉庫がありましたが、昭和 20 年 (1945) 第二次世界大戦末期の前橋大空襲によって焼け落ちました。残った現在の倉庫は戦後、前橋乾繭取引所に対応する倉庫として利用され、群馬の絹産業を支えてきました。

平成 16 年 (2004) に「近代の地域経済を物語る巨大な煉瓦造倉庫」として、『国登録有形文化財』に登録されました。また、2012 年には『ぐんま絹遺産』にも登録されています。現在、倉庫は個人の方や企業等の様々な荷物を保管する一般倉庫として利用されています。また、平成 25(2013) 年に倉庫内の一角に催事スペースをつくり、郷土で活躍した美術家の展覧会や前橋大空襲を語り継ぐ催しなど地域に根差した文化活動の場になっています。

今後、旧安田銀行担保倉庫の歴史的価値を伝えていくとともに、この場所から文化を発信し新たな価値創造の場として も機能するようにしていきたいです。













## 絹遺産:人物 - 蚕都豊橋の基礎を築いた「小渕しち」

中村 武 (NPO 法人 街・建築・文化再生集団)

・人物 - 蚕都豊橋の基礎を築いた「小渕しち」

「小渕しち」は、弘化四年(1847)上野國勢多郡石井村(現前橋市富士見町石井)で生まれました。明治十二年(1879)中島伊勢松(後に徳次郎と改名)と村を出奔。お伊勢参りの名目で東海道を上り、三河の二川宿(現豊橋市二川)まで来たところ、二人が上州から来たことを知り、二川の人たちから糸繰りの技術指導を頼まれました。この地方は養蚕の盛んな地域ですが、製糸技術が未熟な所でした。しちは、座繰り製糸技術の伝授と共に、製糸工場を設立、その後、徳次郎の獄死(戸籍偽証で収監)等、様々な困難を乗り越え、玉糸製糸を考案、糸徳製糸場の経営を中心に活躍、豊橋が全国有数の糸の町として発展する礎となりました。大正二年(1913)には産業功労者として、名古屋離宮に於いて、日本女性で初めて天皇陛下に拝謁という栄誉に浴します。

小渕しちの功績は、現在も豊橋で顕彰され、高校生の演劇や地域住民の活動を通して、誇れる歴史として次世代に伝えられ、地域づくりに活かされています。



二川宿本陣:小渕しちが見た風景



糸徳製糸場( 最盛期には女工 1.000 人の大工場)



(前列右から二人目がしち、右隣が豊田佐吉)



小渕しちの銅像



## 蚕影 (こかげ) 神社 茨城県つくば市神郡

#### 居島真紀・木村美希(筑波山麓わた部)

蚕影神社は養蚕の神として崇敬され、三間社流造の本殿に 稚産霊神(わくむすひのかみ)・埴山姫命(はにやまひめのみ こと)・木花開耶姫命(このはなさくやひめ のみこ と)の三柱の神を祭る。

建立年代については全く資料がなく不明であるが、細部様式から江戸時代初期と推定される。向拝柱の面取は柱巾六寸に対し見付五分である。蟇股や木鼻の絵様操形などは慶長頃の様式をとどめ、いかにも古風である。

これは後述する小田八幡神社本殿・八巻神社本殿に共通する 特徴であり、当時の地方の大工が寛永の新様式をいまだ摂取 していないあらわれである。

また向拝の手挟や妻の虹梁に、唐草が木瓜文状にのびてそ



れが二つ連続した絵様がある。この類例として県内では鉾田町主石神社(天正 10 年 1582)や潮来町普門院(天和 2 年 1682)が挙げられる。普門院の場合はおそらくこの絵様が用いられた下限であろう。蚕影神社は不幸にして養蚕業の衰退と共に衰微を重ねてきている。かつては関東一円から信者が参詣し、北は岩手県に、南は長野県にまで分霊を勧請することもあったという。「筑波郡郷土史」には「正月二十三日を縁日とし、大広前に山の如く藁を積み上げ、夜之を焚く、焔炎天を焦し、山谷為めに明なり、甲信の地にて遥かに此の神光を見るときは、蚕業豊作にして、其光を臨まざるときは不結果なりと云い伝ひ、遠近蚕業家は毎歳蚕業家は毎歳来りて祈らざるはなし」と記す。※当社には蚕をもたらしたという天竺国金色姫の伝説が伝わる(「筑波町史史料集」第五篇参照)。『万葉集』巻十四の東歌に次の一首がある。「筑波嶺の新桑繭の衣はあれど君が御衣しあやに着欲しも」。古くから養蚕の栄えたこの地に、養蚕の神が斎き祀られたのも故なしとしない。(出典「筑波の文化財社寺建築編」,平成 2 年,つくば市教育委員会)

#### ・筑波山麓わた部

「綿のぬくもりと暮らしの知恵」を学びながら、筑波山麓で2010年より綿花栽培を続ける。各種ワークショップ、山麓の文化や歴史を知るツアー、お話し会を開き、失われつつある暮らしの中のみえない宝物を伝えようと活動中。茅葺小屋での連続ワークショップでは、午前中は畑仕事、午後は針仕事をしながら『衣』にまつわる暮らしの技術を年間を通して体験できる。また、2012年からは、養蚕の神様が祀られている「蚕影神社」について学ぶ『蚕影神社ツアー』を例祭に併せて開催。地域の田井小学校と連携し、'蚕を育ててみよう'という活動もはじめ、出来た繭を蚕影神社へ(神社としても40年ぶりに)奉納することができた。奉納した繭をいかし、糸取や真綿つくりの体験ワークショップや市民向けの講座を企画、活動している。



#### <わた部略歴>

- ・2010年 春 発足 不耕作地にて綿栽培開始
- ・2011年 筑波山麓秋祭りにて「蚕のはなしと綿しごと」開催
- ・2012年 春の例祭時「春の蚕影神社ツアー」開催(以降、毎年開催) 蚕の飼育スタート・「まわたぽかぽか」開催・蚕の里親募集と「蚕につい

てのおはなし会」開催 秋の例祭時「秋の蚕影神社ツアー」開催(以降、毎年開催)、繭を神社に 奉納

- ・2013年 綿つくり4年目、連続ワークショップ「綿を育ててちゃんちゃんこをつ くろう~春からはじめる冬支度~」
  - 秋の例祭時 田井小学校児童と繭を蚕影神社に奉納・つくば市市民講座 「蚕影神社ツアーとまわたWS」協力
- ・2014年 連続ワークショップ~和綿の栽培を通じた、農と衣のワークショップ~ 「暮らすようにわたを育てる、針をすすめる」。 田井小学校児童に'真綿作り'指導・つくば市市民講座協力



## 旧東光社女工寄宿舎 - 桜川市真壁町桜井 -

#### 藤川 昌樹(筑波大学教授)

茨城県でも江戸時代から養蚕業を確認することができるが、絹遺産の姿は控えめである。

農家の建築で養蚕に特化するような形態を獲得したものはほとんどなく、屋根裏を小規模に利用する程度のものが大半であった。また現存遺構では工場建築にも目立ったものは報告されていない。しかし、紬で有名な結城のように旧市街地では絹関連産業の痕跡をいまなお見ることができる。

重伝建地区として知られる真壁町は、戦国期には城下町、江戸時代には陣屋町として繁栄した町であるが、近代に入って絹産業が繁栄した。写真は旧東光社が女工の寄宿舎として、真壁の隣村・桜井に建設した長屋である。工場と長屋等の建設により、真壁と桜井は連続した市街地を形成するに到り、小規模な工業都市的様相を呈した。寄宿舎は、近年まで2棟が並んで建っていたが、1棟は東日本大震災の被害を受け、最近取り壊された。残された1棟には4室が収められており、現在でも一部は住宅として利用されている。他にも土蔵などが残されている。

東光社は、幕末から製糸業を開始していた桜井の谷口家が、他家とともに明治 42 年(1909) に設立した会社である。 繰糸女工の数は、大正 13 年 (1924) に 81 人、同 15 年には 100 人を数えたという。

(参照:『真壁町史料』近現代編Ⅲ製糸業 2)



## 飯能織物協同組合会館

#### 浅野 正敏 (一般社団法人埼玉県建築士事務所協会)

飯能織物協同組合会館は、大正 11 年に建築された木造 2 階建て洋館造りの建物。飯能周辺で生産される絹織物の集積場で、品質の確保や納税所としての役目も担っていた。

飯能織物協同組合会館が建っている場所は、飯能市街地のほぼ中心に位置している。飯能の町は、年貢の払うところと して江戸時代前期より形成されてきた。そこでは市(いち)が開かれ、近隣の村から商人達が集まり生活物資の交易が 盛んに行われていた。

江戸時代後期から明治のころになると、山間地では養蚕が収入源として多く生産され、当時のまま住み継がれている農家住宅には、屋根裏や 2 階部分が養蚕のために使われた形態が残されている。中でも明治 26 年築、専用施設として 2 階出梁木造 3 階建ての井上家養蚕小屋(写真 1) は、特異な建物としてこの地域に存在している。

一方、街中では絹織物買継商などの大店が出来、店蔵造りのりっぱな建物も建ち並ぶようになり、その中の 1 つに飯 能市指定有形文化財として保存活用されている「絹甚」(写真 2) がある。

大正時代には絹製造者が大変多くあり、織物業が繁栄している時代の象徴として飯能織物協同組合会館(写真 3)が 建築された。外観は下見板張りの洋風でありながら、鯱(しゃちほこ)の載る日本瓦葺きというおもしろい形態を残し て現在も使われている。しかし、所有者である組合員の減少と高齢化で、近い将来の存続が危ぶまれる状況にある。



飯能織物協同組合会館



井上家養蚕小屋



店蔵「絹甚」

## 飯能地方のはたおり唄から「うちおり」ビデオを制作

石井 英子 (飯能の "みんよう" 保存会)

※協力 · 飯能市郷土館

- ・飯能ケーブルテレビ (株)・「飯能の " みんよう " 保存会」 石井 英子
- ・加藤栄子 (飯能市郷土館協議会 副会長・スペシャル準デジタルアーキビスト)

平成10年ころ、民謡の練習会にお母様やご自分が 織られた味わいのある着物「うちおり」を着て参加し た方がおられました。販売用と区別するために「うち おり」「手前織り」

と呼んだそうです。

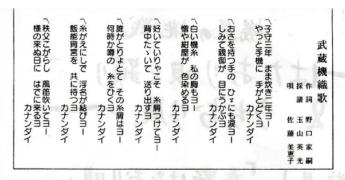
家の養蚕から出た屑繭、機屋からボーナスで貰った 絹糸や余り生糸をためておき、出機・賃機の織子であ るお婆さん、お母さんやご自身が、忙しい合間に家で 糸を染めて縞織に。また、染物屋に織った生地を柄染 めにしてもらい、家で仕立てた着物でした。幸いなこ とにほとんどが絹織物なので、傷まず、捨てられず遺 ていた中から

「これは "うちおり"では?」と、布の端からそう思えるもの、本人や家族から聞き取りをして確実なものを選びました。集まった中の5枚に1枚くらいが求めていた「うちおり」でした。ビデオに収められたのは約60枚にもなりました。

平成14年には飯能市郷土館特別展「うちおり 織物に込められた想い」も開催されました。



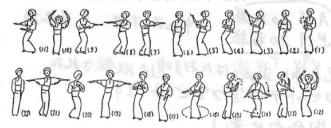
婚礼衣装 江戸褄



民謡の中で、飯能地方の機織り唄ほど、歴史を偲ばせるものは少ないと思う、私の作詞の「はたおり唄」は、最初テイチクレコードから、及川美千代さんの声で吹き込みされ、次に「武蔵機織歌」として、数回テイチクレコードから、佐藤美恵子さんの声で吹き込みされ、キャニオンレコードからも、多田隆章次さんの声でも吹き込みされて、歌出としても編曲されて、鈴木三重子さんなどによっても歌われて、それほどに味のあるメロデーを秘めている民謡でもあります。高麗王若光が此の地に亡命して、当時朝鮮から持ち込まれた産業の中でも、機械りは特に素晴らしいものがあったようで、この地方の機織り唄には歌の尻を上げて歌う、朝鮮古来の民謡のメロデーが秘められているもののようで、仕事唄として唄われてきました。「武蔵機織歌」はそのメロデーを、今に受け継いで、飯能地方の手機おりの歌として昨今まで耳にして来たものであり、私の作った「日高小唄」の中にもこのメロデーを二つ重ねて歌われているものもあり、この郷土に何時までも残して置きたい歌です。

野口 家嗣

## 昭和30年代 振付け当時の絵図





太織(ふとり)

## 甲州市塩山下小田原上条伝統的建造物群保存地区 (茅葺切妻造民家)

#### 飯島 泉(甲州市教育委員会)

甲州市の塩山地域は、江戸時代から養蚕が盛んなところでした。養蚕は、明治時代に入って飛躍的に増産され、近世をとおして養蚕に適さなかった山間地にまで桑が植えられ、伝統的な茅葺切妻造民家や屋敷構えにも影響を及ぼしました。甲州市では、養蚕はその後の果樹栽培に押され、平成に入るとほとんど姿を消してしまいました。蚕のえさとなる桑の葉に、果樹消毒用の薬剤がかかってしまうためです。

ですが私たちは、いろんな場面で「かつての養蚕風景」に出会うことができます。

市内各地の道祖神場には、いろいろな神様とともに「蚕影山」が祀られていたり、山間地の畑の斜面に桑が自生していたり。私が仕事をしている甲州市役所は、もと「シルク」というショッピングセンターで、シルクの名の由来は、明治41年に創業した繭市場にあります。

もっともよく目につく養蚕風景は、「重要文化財旧高野家住宅」に代表される茅葺切妻造民家でしょう。

甲州市塩山下小田原の上条集落は、この茅葺切妻造民家がまとまって保存されているところです。調査の段階で、民家が建てられた江戸時代には養蚕は盛んでなかったことがわかりました。大きな特徴である中央の「突き上げ屋根」は建築当初のものではなく、増産が図られた明治以降に付加されたものと考えられます。

かつての桑畑はモモやスモモの畑に変わってしまいましたが、伝統的な主屋や蚕室は当時の養蚕風景を伝えるものとして貴重です。甲州市ではこの歴史的風致を保存すべく、地元の方々のご理解とご協力をいただき、平成 27 年 2 月 18 日、伝統的建造物群保存地区の地区決定をしました。



## 旧蚕糸試験場日野桑園第一蚕室と仲田の森遺産発見プロジェクト東京都日野市 田中 和夫(仲田の森遺産発見プロジェクト/街・建築・文化再生集団/東京都立田無工業高等学校)

JR 中央線日野駅からほど近い、仲田の森蚕糸公園。ここにはかつて国内の蚕糸業の発展に大きく寄与した「旧蚕糸試験場日野桑園」がありました。明治以降、国内の生糸の品質向上のため、明治 44(1911) 年に農商務省の「原蚕種製造所」が、現在の杉並区高円寺に開設されました。その製造所に桑を供給していたのが日野桑園です。その後、昭和3(1928) 年になると高円寺から日野町仲田に栽桑部、育種部が移り「蚕糸試験場日野桑園」となりました。

昭和7 (1932) 年から蚕室や庁舎、実験室、寄宿舎など多くの施設が作られましたが、昭和 55(1980) 年に蚕糸試験場が筑波研究学園都市へ移転したのに伴い大半の施設は解体されました。現在、公園内には当時の遺構である第一蚕室(愛称:桑ハウス)の建物と、庁舎の基礎部分が残されています

第一蚕室の外観や蚕室には、近代養蚕農家の原型となった 群馬県の「高山社跡」や埼玉県の「競進社模範蚕室」のよう に、気抜き用の越屋根の付いた伝統的な蚕室の形態が見られ ます。その一方で、1 階には当時まだ珍しかった鉄筋コンク リート造を採用し、内部の装飾や窓などに洋風のデザインが 見られるのが特徴です。事務室だけでなく、蚕の飼育室も、 漆喰による装飾を丁寧に施していました。

旧蚕糸試験場日野桑園遺構の保存活用に向け、平成 21 年に市民や大学が連携し「仲田の森遺産発見プロジェクト」を立ち上げ、その存在を広く伝えるための継続的な活動を行っています。これまでに、公園内が会場となる「ひのアートフェスティバル」での第一蚕室や周辺の遺構を使ったインスタレーションやライブ企画、第一蚕室の保存活用に向けたフォーラム、第一蚕室の復元調査等を行ってきました。調査の過程で建設当時の旧図面や古写真が発見され、これらを元に往時の姿も分かってきました。

調査成果やこれまでの活動を元に、日野市の協力も得て、同地域で活動する団体(日野宿発見隊)と共催で、平成26年10月に見学会を開催しました。100名近くの方にご参加いただき、第一蚕室や日野桑園を知っていただく良い機会となりました。今後もこうした活動を通して、地域住民の方々に関心を持っていただき、保存活用の具体的な動きにつなげていきたいと思っています。



建築年月日:昭和7(1932)年3月28日 構造型式等:1階(鉄筋コンクリート造2階木造)



第一蚕室1階(平成26年撮影)



見学会の様子(平成 26 年)

■ 仲田の森遺産発見プロジェクト URL: <a href="https://www.facebook.com/HinoKuwahouse">https://www.facebook.com/HinoKuwahouse</a>

## 全国の鋸(のこぎり)屋根

吉田 敬子(写真家)



富士宮市の鋸屋根工場



今治市の鋸屋根工場

鋸屋根とは、主に工場建築に用いられる屋根の一形式で、鋸の歯の形をした三角屋根のこと。通常、北側の採光面から光を取り入れ、天候に関わらず常に一定という利点があることから、紡績や綿布、織物工場などに用いられる。発祥はイギリスの産業革命時代にさかのぼる。カ織機が設置され、鋸屋根工場が姿を現すのは、1820 年代後半から 30 年代始めにかけてであった。日本では、1883 年建設の旧大阪紡績・三軒屋工場の鋸屋根があった。その後 1888 年代から 1898 年代にかけて各地の織物工場などに取り入れられた。

私が初めて鋸屋根を見たのは、新聞掲載の小さい写真だった。その写真が気になり実物を見 1 に行った私は、その場に立ちつくしてしまった。時が止まってしまったかのような光景の中に建つ鋸屋根は、大地にゆったりと佇み歴史を物語っていた。その日から鋸屋根の歴史を刻み込むように、カメラに収めてきた。

私の撮影は、1998 年群馬県桐生市から始まり全国(北海道と沖縄を除く)を歩いてきた。鋸屋根は同じ建物はありません。木造、石造、煉瓦造、鉄骨造と変化に富み、当時の職人の知恵と技が見えます。内部空間とディテールの美しさには脱帽です。鋸屋根を捜し全国を歩くと、その街道は日本のシルクロードだった。日本の産業は蚕から始まり製糸、絹、織物です。それを築き上げてきた鋸屋根は、日本の産業遺産、絹遺産の証です。この数年、鋸屋根は取り壊され姿を消しています。建物は残っていても、それを知る人も減少しています。産業遺産である鋸屋根の歴史を封印しては、日本の文化を伝承できません。写真をとうして、奥の深い鋸屋根を多くの人に見て知って頂きたい。

## 開港の街横浜・山手西洋館の管理運営について 酒井 浩次(公益財団法人 横浜緑の協会)

鎖国を解き近代化を目指した開港当時、養蚕農家から上質の生糸が港に集まってきた。そのゴールというか、海外への出発地がみなと横浜であった。生糸検査場はじめ、その縁の施設が横浜にも多数残されている。横浜山手西洋館群も、そのひとつであり、外国人貿易商たちの住まいとして建てられたものも数多い。

(公財)横浜市緑の協会は2002年から公園施設として保存活用された横浜山手西洋館の7館の管理運営に携わってきた。歴史的建造物として、緑濃い公園内施設としてしっかりと維持管理すること、また、単に当時の生活を伝えるだけでなく使って楽しんでいただくことを保存活用の2本の柱とするとともに、常に「おもてなし」をすることを心がけている



港の見える丘公園「横浜市イギリス館」(横浜市指定文化財)



港の見える丘公園「横浜市イギリス館」(横浜市指定文化財)



元町公園「ベーリックホール」(横浜市認定歴史的建造物)



山手イタリア山庭園「外交官の家」(横浜市認定歴史的建造物)



元町公園「エリスマン邸」(横浜市認定歴史的建造物



元町公園「山手 234 番館」(横浜市認定歴史的建造物)



山手イタリア山庭園「ブラフ 18 番館」(横浜市認定歴史的建造物)

「花と器のハーモニー」、「ハロウィンウォーク」、「世界のクリスマス」、「山手芸術祭」など地域の方々やボランティアさんの協力支援をいただきながら様々なイベントを行い、当初、年間約30万人ほどだった来館者が2014年度には100万人を超え、皆様に楽しんでいただいている。

また、昨年度から国際交流基金によるベトナム市民交流への協力要請をうけ、南部のカイベー市にあるフランス統治時代の西洋館の活用についての支援をはじめました。

今後も市民、地域、企業など多くの方々に支えられながら、みなさまに愛される西洋館運営に努め、シルクロードの海外への窓口としての歴史や文化を伝えていきたいと考えております。



6月 花と器のハーモニー 館内を花と器で華麗に装飾 7 館延べ 約 80,000 人来館



10月 ハロウィン 館内装飾とハロウィン・ウォークイベント 7 館延べ 約 70,000 人来館



12 月 世界のクリスマス 各国のクリスマス装飾とイルミネーション 7 館延べ約 250,000 人来館



2 月 横浜山手芸術祭 西洋館と山手地区の施設が協働して開催する文化・アートの祭典

## シルクロード・ネットワーク横浜フォーラム・シルクでつなぐ街と人

●見学会「横浜市中区本町界隈の絹遺産を巡る」

【日時】2015年3月14日(土)14:30-16:30

【集合場所】横浜市開港記念会館正面入口(横浜市中区本町 1-6)

【費用】600円

【交流会】17:30-19:30 交流会

開港記念会館→日本大通→象の鼻パーク→中居や旧横浜生糸検査所付属生糸絹織物専用倉庫(横浜市認定歴史的建造物)

















●セミナー「シルクロード・ネットワーク・横浜フォーラム」

【日時】2015年3月15日(日)11:00-16:00 (受付10:30)

【会場】横浜市開港記念会館【講堂】講演会・全国の事例報告【1号室】全国の事例パネル展示・物産販売【記念講演】「絹の歴史と文化・原三溪」川幡留司氏(公益財団法人 三溪園保勝会)

【基調講演】「横浜の絹関連建造物の魅力」吉田鋼市氏(横浜国立大学名誉教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会副会長) 【記念コンサートピアニスト】後藤泉〜ピアノが奏でる絹・横浜〜









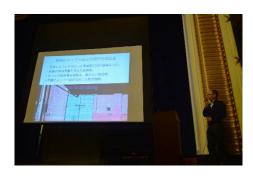




















旧横浜生糸検査所付属生糸絹織物専用倉庫(横浜市認定歴史的建造物) 写真:米山淳一

シルクロード・ネットワーク・横浜フォーラム2015「シルクロードでつなぐ街と人」 当フォーラムの開催及び大会資料の発行にあたり、各企業の皆様よりご協賛賜りました。

心よりお礼申し上げます。

株式会社三陽物産株式会社

t v k コミュニケーションズ

相鉄企業株式会社

株式会社大川印刷

株式会社タカシン

株式会社山陽印刷

発行年月 2015 年 3 月

編集・発行 公益社団法人横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ)

tel: 045-651-1730 mail: <u>yh-info@yokohama-heritage.or.jp</u>

協力 NPO 法人 街・建築・文化再生集団